生徒に見られるつまずき

　論理の展開を工夫して、筋道の通った文章を書くことができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　２つのパターンの構成を提示し、どちらが効果的か検討させ、筋道の通った文章を書こうとすることができる

指導事例集ｐ．３５

１　学年・単元名　第３学年　「慣用句・ことわざ・故事成語」

ことわざと体験を結びつけて、２段落構成の文章を書く（書くこと）

２　第３学年　「慣用句・ことわざ・故事成語」　言葉②（伝国）

３　指導展開（２時間計画）

　第１時　慣用句・ことわざ・故事成語の成り立ちや意味、用法について理解する。（伝・国）

　第２時　ことわざと体験とを関連づけて、２段落構成の作文を書く。（書く）

４　本時の目標

　　ことわざと体験とを関連づけて、２段落構成の作文を書くことができる。

５　本時の展開　　**太字はつまずきに対する手立て**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | 指導上の留意点 | **つまずき解消ポイント** |
| １ 前時の復習をする。  ・既習事項の確認  ２ 本時の学習内容と  目標を知る。  ３ ことわざに合った体験を考える。  ４ 段落構成を考える。    ５ 「書き出し」と「結び」の一文を考える。  ６ 下書き・推敲をする。  ８　班で交流する。  　　写真：授業風景①  ９　清書をする。  １０ ペアで交流する。    １１ 相互評価と振り返りをする。 | 〇ことわざと体験とを関連づけて、２段落構成の作文を書くことを理解させる。  ※カードを複数準備し、視覚に訴える支援を行う。  〇ことわざを1つ選び、それに合った体験を考えさせる。ワークシート①に記入させる。  ・モデル作文を配布し、前半・後半のどちらに体験をもってくると良いか検討させる。  ※尾括式・頭括式のいずれでも良いが、頭括式の場合、結びの一文が重要になることに気づかせる。ワークシート②  〇読み手を引きつける「書き出し」と「結び」を考える。  〇推敲の観点に沿って、下書きした文章を練り直す。  ①誤字・脱字はないか  ②語句の係り受けは適切か  ③文末表現は統一されているか  ④条件に合った内容・構成になっているか  〇ワークシートを交換させ、良かった点をひと言ずつコメントとして記入させる。  ※付箋に気づいたことや表記の誤り、良かった点など、ひと言コメントを記入する。  　　　　　　　　　　　　資料：生徒作品①  ○ワークシート②に清書をする。  〇ペアで完成した文章を読み合い、感想を交流し合う。  ○ことわざが表す教訓や戒めがいかされた内容・構成になっているか、振り返りをする。 | ※ワークシートやモデル作文を準備し、書くことに対する苦手意識を軽減する。  **※体験を初めに書くＡパターンと、体験を後に書くＢパターンを提示し、モデル作文をもとにどちらが効果的かを検討させる。**  →内容ごとに段落を整理できる。  →体験とことわざとのつながりを意識して文章を構成することができる。  **※下書き・推敲の後、班で交流させる。付箋を使って推敲のポイントを記入させる。**  →よりよい文章を書く意欲が喚起される。 |

６　準備　　ワークシート①・②、ことわざプリント・短冊